

災害備蓄品販売

提供／ローズリヤン(株)



他社とは、ココが違います！

- ✓ 一般食から、特別食向けの治療用・介護用食品まで、**お客様のご予算・ご要望に合わせた「災害備蓄食」をご提案**します。
- ✓ 利便性・保存性・栄養面に優れた災害備蓄食を、**幅広くご用意**しています。



お客様に合わせた「災害備蓄食」をご提案いたします。

事業案内

近年、立て続けに起こる自然災害の脅威と比べ、会社様、施設様、病院様におかれましては、日々の業務が優先され、どうしても災害対策の優先順位は低くなりがちになってしまうと推察いたします。

しかしながら、いつか、どこかで起こる災害への対策は決して侮れない事業継続事項であり、お客様、従業員様救済という必要事項であると考えます。弊社ではその災害対策において最重要とされる【食で命を繋ぐ】という視点から災害備蓄食の必要性を訴え続けていき、現実にかかるその時にお役に立てるようにご提案させていただきます。

これだけは備えておきましょう！

水



飲料水として、1人当たり1日3リットルの水が必要です。

米



備蓄の柱！ アルファ米、粥や長期保存おにぎりを選ぶと便利です。

カセットコンロ



熱源は、食品を温めたり、簡単な調理に必要です。※ボンベも忘れずに！

缶詰



缶詰は調理不要で、そのまま食べられるものを選ぶと便利です。

災害発生から 1 週間の備え

災害などが発生しライフラインが停止してしまった場合には、発生当日、3日間、1週間とライフラインの復旧状況が異なります。復旧段階に応じた食料品を備蓄しましょう。

発災当日

水3リットル + 調理不要な食料品3食

- 最低限の飲料水(1人1リットル)、缶詰や調理せずに食べられる備蓄食料品(アルファ米、長期保存パンなど)を3食分備えるとよいでしょう。
- 避難する際に持ち出せるよう、1日分程度は非常用持ち出し袋に入れて準備しておきましょう。

発災後3日間

水 + 熱源 + 9食

- 1週間分の水とカセットコンロなどの熱源を確保するとよいでしょう。
- 交通網の寸断などにより、行政からの物資などの配給が3日以上到着しないことが想定されるため、最低でも3日分(9食分)の食料品は確保するよう心がけましょう。
- ボンベは火気や直射日光を避け、風通しのよい湿気の少ないところに保管しましょう。

発災後1週間

3日分の備え + α(備蓄品・食料品など)

- 発災後3日分の備えに加え、さらに備蓄食料品などを用意すれば、ライフラインがすぐに復旧せず、1週間程度、水や熱源がない場合でも対応が可能となります。つまり、1週間分程度の食料品を確保すれば、ある程度の事態に対応可能と考えられます。
- ガスや水道の復旧の遅れ、物流機能の停止や食品産業事業者が被災した場合、復旧後も一部の食料品については入手困難になることも想定されます。